

地質サイトカード

カードNo.	A-①-4	通しNo.	4	作成日	2025/3/10
サイト名	<small>ただうら ちよくりつそう</small> 唯浦の直立層				
基本情報	エリア	島根半島 探訪サイト			
	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 地質・地形	<input type="checkbox"/> 生態	<input checked="" type="checkbox"/> 文化	
	利用価値	<input checked="" type="checkbox"/> 科学	<input checked="" type="checkbox"/> 教育	<input type="checkbox"/> 観光・ツアー	
	所在地	出雲市美保町唯浦			
	アクセス	山陰道 宍道ICから約20km、約40分 一畑電鉄 雲州平田駅から平田生活バス釜浦線約25分、美保漁港下車			
	周辺施設	<input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 売店 <input type="checkbox"/> 飲食店 <input checked="" type="checkbox"/> 駐車場(港に3台程度) <input type="checkbox"/> ウォーキングコース <input type="checkbox"/> サイクリングコース <input type="checkbox"/> 観光施設()			
	看板整備				
	留意点				
保護・保全	法規制・関連団体等				
	保全メモ				
サイトの解説	みどころ	島根半島に大規模な地殻変動があったことを示す直立した地層			
	地質・地形	<p>唯浦の海岸では、地層の傾斜が90度を超えた状態の「直立層」がみられる。地層は礫岩と砂岩でできており、礫から砂への級化成層が発達する。第三紀の地層で直立するほど大規模に変形している場所は国内では珍しい。島根半島が「宍道褶曲帯」とよばれるほど褶曲と断層を伴って、地層がはげしく変形と変位をしている様子を知ることのできる代表的な場所である。この「直立層」は、ここでは孤立した状態になっているが、周辺の地層と併せてみると、「直立層」の下位の黒色頁岩層も直立していることが塩津小学校(廃校)の北の海岸で確認することができる。しかし、その南の崖斜面では、黒色頁岩層が緩やかな南傾斜となっており、全体として断層を伴った背斜構造となっている。背斜軸はやや南に傾斜しており、翼間角が極めて小さい、折れ曲がった閉じた褶曲をなす。この「直立層」は釜浦西方の海岸で見られる礫岩層に対比される。唯浦の「直立層」は北翼、釜浦の海岸は南翼にあたる。</p> <p>このような大規模な地質構造の形成は、今から約1500万年前以降の西南日本弧が現在の場所に位置するようになったころとみられる。</p>			
	歴史・文化 生物・生態 等	『出雲国風土記』には唯浦の「直立層」は能呂志嶋とよばれていた。直立層の層理面には「義勇の碑」が刻まれている。1912(大正元)年12月、嵐の日に遭難した人々を救助するため、自ら尊い命を捧げた若き人々の碑である。			
写真・図等					
参考文献	鹿野和彦ほか(1991)今市地域の地質				